



CASSIOPEIA-UHC達成に向けて、対象の5つの病院における、5つ星に輝く質の高い医療ケアサービスを目指して

JICA ルサカ郡総合病院運営管理能力強化プロジェクト



2023年6月27日から7月7日にかけて日本で開催された「病院運営管理強化に向けた日本の取組みと経験」研修でのザンビア人研修員と日本人専門家の様子。国立国際医療研究センターで手指衛生のトレーニングを行っている。

「病院運営管理強化に向けた日本の取組みと経験」研修

チバタ病院とチレンジェ病院の交流プログラム

日本の学校教師がチャワマ病院を訪問

フォト・フォーカス
日本で開催された病院運営管理強化研修



日本での病院運営管理強化研修

ザンビア人研修生が病院運営管理強化における日本の取り組みと経験を理解することを目的として行われました。



チョラ・チョンゴ医師 - ルサカ州保健局 公衆衛生部長

日本での研修は、病院経営と感染予防対策における日本の経験に焦点を当てたものでした。研修メンバーの選定は、2023年1月に院長を対象に実施された1回目を踏まえ、プロジェクトの推進に重要な人材を対象として、日本での経験をより強く伝えるための戦略的なものでした。研修には、ルサカ州保健局と5つの一次レベル病院の事務長、看護師長が参加しました。

研修生は、日本の病院運営のあり方について、病院の使命、ビジョン、目標に焦点を当てた講義を受けました。病院のミッションとビジョンを共有することは、全職員のモチベーションを高めることができる重要な要素のひとつです。

研修では、医薬品、医療品、医療機器のサプライチェーンマネジメントにも焦点を当てました。医療用品の分野では、5Sを用いた施設内の配置や、医薬品がどのように管理されるか、基本的にサプライチェーンがどのように運営されているか、そして患者であるエンドユーザーに届くまでどのように医薬品が調達されるかに焦点が当てられました。

ザンビアの薬剤師が病棟に入り、この業務を遂行することができれば、病院内の医薬品を管理するのに役立ちます。そして、病棟から得られたデータを使って、各病棟での使用状況に応じて途切れなく日本での医療器材・医薬品を提供することができるのです。

研修生は、機器のメンテナンス方法、機材のメンテナンス実施の戦略を高く評価しました。今回の研修で注目した重要な問題のひとつは、予防保全が日常的に行われてい

ること、そして、エンドユーザーが作動している機器と作動していない機器をチェックし、機器の手入れをするよう訓練されていること(ユーザートレーニング)だと強調しました。これをザンビアでも活用し、機器のメンテナンスに優先順位をつけ、適切に管理すれば、機器の交換にかかる施設側の莫大なコストを削減し、機材を長持ちさせることができます。

研修で焦点を当てたもうひとつの分野は、感染予防管理(IPC)と、病院環境の基本原則、外来における患者の流れや混雑を緩和するためのトリアージ(優先順位)の仕組みでした。

感染予防管理で直面している課題は、以前は看護師や医師がザンビアの衛生環境スタッフと協力する体制があったものの、最近ではすべてが衛生環境スタッフに任せられるようになり、彼らの負担も大きく、病院における感染予防管理が難しくなっています。日本では、看護師や医療スタッフの連携を強化することで、仕組みの自立性を確立しています。

感染予防管理に関して、日本の病院の廃棄物管理方法についての学びも大きいものでした。日本の病院では、廃棄物を発生時点で分別できるシステムがあり、これが感染対策の遵守に役立っています。もし私たちも同じように廃棄物を管理することができれば、病院廃棄物の処理ははるかに向上し、安全になるだろうと思います。

また研修では、人材管理、財務管理についても学びました。また、医療保険制度や施設運営の意思決定プロセス上のデータ管理方法についても説明がありました。



真生会病院の真鍋院長に記念品を贈るルサカ州保健局のチョンゴ医師とチポウエ看護部長。



ザンビア人研修生に静脈注射の準備を見せる国立国際医療研究センターの看護師。



国立国際医療研究センターの救命救急センター前のザンビア人研修生。



医薬品の供給・加工・流通(SPD)プロセスについての説明の様子。

さらに研修生は、プロジェクト対象病院と同規模の富山県の真生会富山病院を訪問して、「他者への思いやり」を意味する「自利利他」の精神など、日本の文化的規範の観点から重要な留意点が強調されました。この言葉をスタッフや職場環境に浸透させることで、スタッフが患者を満足させることに集中できるような姿勢を築く土台を作ることができます。

真生会の注目すべきもう一つの点は、地域社会やスタッフから収集された意見や知見をフィードバックする仕組みと、その回答が病院のサービス向上のためにどのように活用されるかという点です。その上で、私たちザンビアの病院に見られるいくつかの課題においても、フィードバックや苦情処理メカニズムを、患者や地域住民の満足度を向上させるために、どう活用すべきか、学びアイデアを得ることができました。

現在地域住民は、政治家などの上層部への直接報告や苦情を言うようになっていますが、本来あるべき姿ではありません。もし施設に苦情処理メカニズムがあり、地域住民がそこで報告すれば対応してくれると信頼関係が築ければ、問題は解決するはずで

この研修では、各部門がミーティングを開き、設定された指標について話し合い、十分な情報を得た上で意思決定を行うよう見直すことで、集中力を高め、各自のシステムをうまく調整できるようにする、という調整面にも焦点を当てられました。この要素が強化されれば、医療施設の管理方法を調整するのにとっても役に立ちます。

病院の運営側の役割は重要であり、運営側が組織の目標に集中すれば、システムをうまく調整し、自分たちの行動に対する説明責任を確実に果たすことができます。

さらにトレーニングとは別に、日本人の規律正しさ、謙虚さ、シンプルさに驚きました。日本人のやり方には秩序があります。技術の進歩にもかかわらず、日本の文化はいまだに強く人々を尊重しています。

チョンゴ医師は、日本酒と寿司という日本の伝統的な嗜好品についても言及され、日本文化をととても楽しんだ様子でした。

最後に、理論よりも実際に見たり体験したりすることのほうが重要で、なぜならそれは、物事が実際に可能であることがわかり始めるからです。また、臨床工学技師、薬剤師、データ管理者など、研修に参加させるスタッフを戦略的に選ぶことも重要です。なぜなら、彼らは変革の立役者であり、変貌して戻ってくるからであり、学んだことを実行に移せるチームを徐々に作り上げていくからです。



モンデ・ムヤンバンゴ氏 -
チレンジェ病院看護部長

さらに日本人は時間管理に長けており、それは我々も見習うべき点だと言います。

また、機材管理についても、予防保全の定期的なスケジュールを設定して、適切に管理するということを学びました。

今後、チーム全員を参加させるオリエンテーションを計画しており、5Sの実施を始めました。プロジェクトが終了しても、継続的な指導と監視を続ける予定です。



アンソニー・カゼンベ氏 -
チパタ病院、事務長

チパター次レベル病院のアンソニー・カゼンベ氏によると、今回の研修では、患者満足度、廃棄物管理、医薬品の在庫管理、病院環境の清潔保持についても大変勉強になったと言います。

廃棄物管理に関しては、病院スタッフは周囲の衛生環境に責任を持つべきであり、それぞれの

ミ箱にどのような廃棄物が捨てられるかを示すために、写真付きのラベルを明確に貼るべきです。廃棄物の分別と周囲を清潔に保つことを意識させれば、感染症の減少に本当に役に立ちます。

また研修中に、日本ではどのように病院を管理し、うまく機能しているかを見る機会があったと言います。さらに病院の清潔さと各スタッフの責任感にとっても驚きました。

アンソニー氏は、フロアマネージャーが、患者と彼らが受けるケアに対してどのような関心を持っているかを例に挙げました。彼らは患者が必要とするサービスを確実に提供し、患者が満足するよう見守っています。

真生会病院では、患者一人ひとりの生命を尊重するという理念のもと、患者を幸せにすることに力を注いでいました。患者さんに満足していただけるサービスを提供すること。患者に微笑みかけるだけで、患者は回復を確信し、元気を取り戻すと信じられていました。

また、病院での体験に加え、休みの日には、ザンビアにはないビーチにて砂の家づくりも楽しみました。日本人の親切さに感謝し、日本食の「寿司」を嗜み、日本文化を大いに堪能しました。

同じく研修に参加したチレンジェ次レベル病院の看護部長モンデ・ムヤンバンゴ氏とのインタビューでは、この研修は教育的であり、優れた管理システム、優れた調整力、チームワークなど多くのことを学ぶことができ、研修のプレゼンテーションの流れも理解しやすかったと高評価でした。

また、真生会富山病院で働くスタッフの仕事ぶりにも驚いたと言います。病院の各スタッフには特定の職務があり、全員がチームとして関わっています。例えば、私たちの病院では、薬局に薬を注文するためには走り回る看護師がいますが、真生会病院では部署が注文をすると、決められた人が薬を病棟に届けます。看護師と薬剤師の部署はよく整理整頓されており、物品の並べ方にも5Sが適用されています。彼女は

チパタ病院とチレンジェ病院の交流プログラム

2023年7月20日、チパター次レベル病院の院長、医療・管理スタッフで構成される経営陣は、チレンジェ一次レベル病院から国民健康保険制度 (NHIMA) 部門の運営方法を学ぶ目的で、チレンジェ一次病院を訪問しました。NHIMAにより、病院は直接機構から収入を出来高払いで得ることができます。NHIMA患者が増えれば病院の収入は上がります。

チレンジェ一次レベル病院のリチャード・ムワイラ院長は、チパター次レベル病院の経営陣に対し、各病棟のスタッフがレビュー会議を継続して実施し、病院インフラの改善や人的資源の増強などの病院を改善し、NHIMAをどのように活用するのかを計画するために経営陣のリーダーシップとコミットメントが必要であるとアドバイスしました。また、チレンジェにはNHIMAに関する業務を専門に遂行するスタッフがあり、彼らの存在が患者の待ち時間短縮に役立っていることにも言及しました。提供するサービスや病院の環境をより改善するために、病院内の各スタッフの積極的な関与の必要性を強調しました。

チレンジェ病院のモンデ・ムヤンバンゴ看護師長は、チパタの経営陣に対し、チームワークが重要であり、NHIMA病棟と病院全体を改善するためには、すべての部門長が関与しなければならないことを強調しました。チパター次レベル病院は、その後チレンジェ一次レベル病院を見学し、NHIMAを活用して行われている活動のいくつかを見学しました。



チレンジェ病院とチパタ病院の経営陣が、チレンジェ病院のNHIMA病棟に関して議論している様子。

日本の教師がチャワマー一次レベル病院を訪問

2023年7月25日、日本の学校教師陣がチャワマー一次レベル病院を訪問しました。JICAのザンビアでの活動を知り、国際開発におけるJICAの役割を理解し、生徒たちにザンビアのことを知ってもらうことが目的です。病院では、リハビリテーション、産科、外来などの病棟を見学しました。

チャンダ・シユラ院長は、先生たちに病床数や患者数などの統計情報、よくある症例などの基本的な病院の概要を説明しました。



チャワマ病院のリハビリテーション病棟見学の様子。



チャワマ病院関係者、プロジェクトスタッフと集合写真を撮る日本の先生たち。

フォト・フォーカス



薬局で発注プロセスに関する説明を受けている研修生の様子。



医療品がどのように管理されているかを見学する研修生の様子。



感染予防と管理に関するアンケートについての協議する様子。



講義中のザンビア人研修生の様子。



データ入力方法を学ぶ研修生の様子。



滅菌についての説明を受けるザンビア人研修生の様子。



日本の海岸でチョンゴ医師、ニャンガ専門家、塩田専門家に砂の家の作り方を教えるザゼンベさん。

編集・デザイン: エレン ムティナ チピリピリ
編集: 緒方 敬
編集長: 法月 正太郎

連絡先
法月正太郎 ルサカ郡病院運営管理能力強化
プロジェクト チーフアドバイザー

住所: Plot No.11743A, Brenwood Lane,
Longacres. P.o. Box 30027, Lusaka, 10101,
ZAMBIA